

# 拠点運営での取組報告

〈事業報告〉

やはぎかん

2024.8.29 / 9.27

市民活動サポート研修 SDGs研修 ①基礎編 ②応用編

●総来場者数 46名

●協働先 株渡辺米穀店、和っ家、高齢者体験サポートクラブ

●基礎編では、市民活動促進のためにSDGsを自分事にし、団体としての存在価値や今後の参考になるような基礎を学びました。また、後半の時間では、株渡辺米穀店さんによるSDGsへの取組を伺い、地産地消をテーマにお米の食べ比べを実施しました。

応用編では、協働事例を多数お持ちの和っ家代表の猪飼氏を招き、他者との関わりを学びました。その後、高齢者や介助の必要な人を知り、福祉に目を向けるきっかけとして、高齢者サポートクラブによる高齢者疑似体験を行いました。



悠紀の里

2024.9.8

むつみ地域交流会

●総来場者数 59名

●悠紀の里サポート一會による三河地震についての発表、岡崎市防災課によるファーストミッションボックスの説明を受けた後、参加者が6グループにわかれ、ファーストミッションボックスを使った避難所開設を疑似体験しました。その後のグループワークでは、良い点・気になった点などを共有。同じ体験することで、地域共通の課題で話し合いができ、地域の繋がりが強くなりました。また、総代さんだけでなく、学区社教の防災関係者の方々にも参加していただき、様々な主体の方々の交流ができました。



## まち育て推進チーム Pick UP !

### ワクワクする矢作公園の活用を考えるワークショップ

2024年12月15日(日)に、西部地域交流センター・やはぎかんで開催された「ワクワクする矢作公園の活用を考えるワークショップ」(主催:岡崎市公園緑地課)の企画・運営をいたが担当しました。矢作公園は一部改修が予定されていますが、本ワークショップでは、現在の利用実態を踏まえ、これからどのように活用していくかを探ることを目的としました。幅広い年代の参加者が、自由で創造的なアイデアを出し合いながら、実際に実現したい優先度の高い公園の使い方を話し合い、「楽しみながら防災を学ぶイベント」、「地域交流を促す餅つき」、「公園の自然を満喫する自然遊び」などの提案が生まれました。

今後は、今回のワークショップで出されたアイデアをどのように実現に移していくかを検討するためのサポートをしていきたいと思います。



お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114	
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

発行・編集

特定非営利活動法人  
岡崎まち育てセンター・Lita-

T 444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6  
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898  
<http://www.okazaki-lita.com/>  
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

2025.01 vol.131

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター  
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／  
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり

まちのミカタ

Litaracy 一りたらしいー

131

2025年1月



特集

## 地縁組織・市民活動団体向けに 新たな支援サービスを開始します！

「協働」とは、複数の主体が共通の目標に向かって力を合わせて活動することを意味します。

岡崎市では、この「協働」の必要性が語られるようになってから約20年が経ちました。近年、市民活動や地域活動の現場には大きな変化が見られます。例えば、共働き世帯の増加や定年年齢の引き上げにより、これまで活動の主力とされていた主婦や定年退職後の男性を取り巻く環境が変化しました。加えて、現役世代のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、地域活動・市民活動における人手不足が深刻化しています。そのため、活動の企画・実施から組織運営のための事務手続きまで、一部の扱い手にたくさんの業務が重くのしかかっているのが実情です。

りたは中間支援組織として、市民、市民団体、企業など多様な主体との協働を促すことで活動の扱い手確保に努めてきましたが、現在「人手が足りない」「事務仕事よりもっとわくわくする企画に力を注ぎたい」といった声に応えるため、市民活動や地域活動を支援する作業代行や出張講座などの新たなサポートメニューの開発を進めています。

## 特集

# 単純作業から企画立案まで 地縁組織・市民活動団体向け有償支援サービス開始

## 新たな支援サービス創出の背景

地域交流センター1号館である北部地域交流センター・なごみんが来年4月で20周年を迎えます。開館以来、活動をけん引する方が変わっていない団体も多く、「今までできていたことができなくなっている」という声もしばしば耳にしてきました。これは、市民活動団体だけでなく、町内会などの地縁組織も同様の傾向にあると感じています。

これまで、りたは、中間支援組織として、団体の自立を目指した支援をすることに努めてきました。しかし、担い手不足で団体活動に支障が出る団体が増加傾向であることを鑑み、実働を伴う直接的支援を企画立案するにいたりました。

今まで実施してきた「間接的支援」と今後始めていく「直接的支援」を並行して実施していくことで、持続可能な市民活動・地域活動を推進していきます。

## 地域支援事業とは？

### ●サポートメニュー

- |             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 1.会議サポート    | ・会議進行  ・会議記録作成              |
| 2.事務・印刷サポート | ・資料作り代行  ・情報誌作成  ・アンケート集計   |
| 3.IT・経理     | ・インスタグラムの立ち上げ  ・会計処理代行      |
| 4.出張講座      | ・広報講座  ・避難所運営ゲーム体験  ・ボランティア |
| 5.各種相談      | ・イベント企画、運営  ・団体設立           |

詳細や料金はりたHPで  
ご確認ください。



### ●事業の流れ



時間や労力を有効に使いたい方向けの有料プログラムです。  
まずはご相談ください。ご希望に合わせたプログラムと見積りを提案します。  
契約成立後は詳細な打合せを行いながら内容を詰めていきます。

### | プログラム実例 |

やはぎかんの防災交流会のチラシを見た聴覚障害者の支援団体の方から「防災に関する出張講座をお願いできないか」という相談がありました。

これまでなら講師になれるような団体の紹介や必要な情報の提供をするところを、当事業の構想中だったこともあり、試行でまずはやらせてもらおうということで実施が実現。事後のアンケートでは、有料でもお願ひしたい(3,000~20,000円)という評価をもらえ、需要を把握することができました。



まちの今を切り取る！  
まちづくりトピックス  
—town planning topics—

# 西梅園路地菜園プロジェクト

## ● 地域とつながり地域で育てるために -プロローグ-

籠田公園からほど近い西梅園地区は、戦災復興区画整理区域から外れたこともあり、戦前の町割りが残っており、幅2mに満たない路地が多く見られます。そのため、車が入って行きなったり、建物の建替えの条件を満たさない敷地が多く、後継世帯は転出傾向にあります。その結果、空き家や独居・老々世帯が増加してきており、災害リスクが高い状況にあります。

また一方で、路地を歩くと、小樹やプランターで植物等を育てている住民が多く、地域全体に緑の多さを感じられるという魅力があります。

こうした課題と魅力が共存する西梅園地区において、りたは、地域包括支援センターや岡崎市ふくし相談課といった公共機関に加え、民間事業者とも協働し、包括的な地域課題の解消を目指して、「西梅園路地菜園プロジェクト」を今年度からスタートさせました。

まずは、誰もが気軽に参加しやすく、コミュニティ形成に適している菜園(野菜づくり)を通して、住民同士の関係を再構築し課題解決につなげていきます。詳細は次号でご紹介します。



りた's Eye

拠点となる空き家の改修に合わせ、まずは、菜園づくりに取り組みました。今回、野菜づくりのプロである山田農園さんに監修を依頼し、専門的なアドバイスを受けながら進めました。収穫時期に応じて種と苗を使い分ける方法や、日当たりや収穫後の土の状態を考慮した植え付けの工夫など、プロならではの知識を惜しみなく教えていただきました。

作業には4名のボランティアの方が参加し、半日ほどで菜園が見事に完成。冬から春にかけて収穫できる白菜や水菜、ソラマメなど、数種類の野菜を植え付けました。今から収穫の日が待ち遠しいです。

りた職員の思いを伝える！

コラム ~lita column~

## スマホアプリ「結ネット」体験

先日、スマホアプリ「結ネット(ゆいねっと)」を使用した実証実験に同席させてもらいました。このアプリは担い手不足が課題となっている自治会・町内会を始めとする地域組織や各種団体の日々の活動・運営をアシストする機能を持っています。

実験では幅広い年齢の住民が集まり、スマホを手に災害時の「安否確認機能」を使いこなせるよう確認作業を行いました。高齢の参加者も積極的に質問しており、大事な機会だと実感しました。

さて、息子の通う学校も出欠連絡やお手紙、配信資料、そして生徒災害時安否状況などの機能を持つアプリを採用しています。紙のお知らせにタイムラグがある我が家にはとても便利です。インストールは入学時に必須で、生徒全員が登録。1アカウントで数名の登録が可能となり、家族間の共有し忘れも防げています。

私の住む地域でも「結ネット」導入となれば、高齢の家族と共に便利な機能を活用し、「日常」にしていきたいと思います。



小早川隆恵(やはぎかんセンター長)

年末の掃除で「あら、こんな所にあったのね！」と無くしたものを見つかったことはありませんか？モノが無くなるのは悪い魔女が隠しているかららしいです。魔女が嫌いなニンニクがあるように見せかけなければ退散し、モノが出てくるそう。試してみてください！